

現代音楽における美と技を求めて 小林聡羅教授の退任を記念して

私は、1990年4月に音楽学部専任講師として本学に赴任しました。2026年3月末に定年を迎えます。赴任して以来、36年に渡り、教育・研究・創作活動を続けてきました。創作活動では、現代音楽における美と技を求めてきました。現在、色々なタイプの音楽が書かれていますが、私は一貫し、透明で硬質で美しい音楽を書こうと努力し、同時に自身の作曲技術を高めて行くことと、演奏における新しい表現力（奏法と技術）を演奏家の協力を得ながら探してきました。この講座では、拙作を数曲、作曲者である私の解説と合わせて聴いていただければ、大変嬉しく思います。

——小林聡羅

音楽を

愛知県立芸術大学



2026年

2月14日 [土]

14:00 開演 (13:30 開場)

愛知県立芸術大学
室内楽ホール

入場無料・全席自由 (事前予約不要)

※未就学児の入場はご遠慮ください。

●演奏——

長崎貴洋 (指揮)

三原奏音 (フルート)

高橋絵里子 (ピアノ)

神谷英里佳、高田知子 (ハープ)

Forest 2025 Orchestra

●曲目——

“Spark” for Flute (2004)

“Glass Swan” for Piano (2000)

Harp Concerto No.4 (2015)

Harp Concerto No.6 (2022)

※曲順未定

小林聡羅 (こばやし・あきら / 作曲)

群馬県生まれ。1985年東京藝術大学音楽学部作曲専攻卒業。1987年同大学院音楽研究科修士課程作曲専攻修了、第1回カルロス・チャヴェス国際作曲コンクール第1位受賞 (メキシコ)。1988年日本交響楽振興財団第10回作曲賞受賞、今日の音楽第3回作曲賞入選。1990年愛知県立芸術大学音楽学部専任講師。1994年第1回ヌオーヴェ・シンクロニエ国際作曲コンクール入選 (イタリア)。1996年文部省在外研究員 (フィンランド国立シベリウス・アカデミー)、上毛新聞社主催上毛芸術奨励賞受賞。1999年第9回ジーノ・コンティッリ国際作曲コンクール入選、名誉の楯受賞 (イタリア)。2000年アジア音楽週間2000 in 横浜入選。2001年フェデレーション・ミュージック・ウィーク入選 (オーストラリア)。2022年第3回国際創造的芸術シンポジウム (ISCFA) 2022 名誉賞受賞 (タイ、タクシン大学)。2025年愛知県文化芸術選奨文化賞受賞。現在、愛知県立芸術大学音楽学部教授、名古屋音楽大学非常勤講師、日本現代音楽協会会員、日本作曲家協議会会員、全日本児童音楽協会副会長。



長崎貴洋 (ながさき・たかひろ / 指揮)

リューベック歌劇場第一指揮者、代理音楽総監督。指揮、作曲、ピアノ、伴奏法を学び、歌劇場専属コレパティオーアを経て指揮者となる。ドイツ在学中よりライプツィヒ歌劇場のコレパティオーアを務め、アルテンブルク・ゲラ歌劇場 (2009～2019)、リューベック歌劇場 (2019～) と専属契約。ワーグナー、シュトラウスのドイツオペラに加え、イタリアオペラ、フランスオペラ、バロックオペラ、オペレッタ、バレエなど約50演目を指揮。現在ドイツを中心に、オペラ指揮者、歌曲伴奏者、通奏低音奏者として活躍する。指揮をクリスティアン・ティーレマン、室内楽をメナハム・プレスラー、ドイツ歌曲をブリギッテ・ファスベンダー、グラハム・ジョンソン、バッハ奏法をベーター・シュライアー、ヘルムート・リリンクに学ぶ。三重県いなべ市出身。愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。同大学院音楽研究科修士課程作曲領域修了。岡田文化財団の助成を得てライプツィヒ音楽大学伴奏科及びピアノ科修了。作曲を戸島美喜夫、小林聡羅各氏、ピアノを加藤美緒子、兼重直文各氏に師事。中村桃子賞受賞。

お問合せ 愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課

☎0561-76-2873 (受付時間 平日 9:00～17:30)

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114

アクセス

◆名古屋方面から

市営地下鉄東山線終点「藤が丘」駅下車
東部丘陵線 (リニモ) に乗り換え「芸大通」駅下車
徒歩約10分

◆豊田・瀬戸方面から

愛知環状鉄道「八草」駅下車
東部丘陵線 (リニモ) に乗り換え「芸大通」駅下車
徒歩約10分

※駐車場の数に限りがありますので、公共交通機関のご利用にご協力ください。

主催：愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学 / 企画：愛知県立芸術大学 社会連携センター

